

I-3 岡山県真庭郡久世町立遷喬小学校

(1) 〒719-3201 岡山県真庭郡久世町久世100

【学年別学級数】

学 年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特殊学級	合 計
学級数	3	2	3	2	3	3	1	17
児童数	86	69	83	74	84	82	4	482

【教職員別人数】

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務	司書	栄養士	調理職員	校務員	講師	合計
1	1	21	1	1	1	1	8	1	2	38

(2) 学校の沿革

創立は明治7年。校名「遷喬」は、中国の詩経伐木の詩の一節「出自幽谷遷于喬木」（幽谷より出でて喬木に遷る）から備中聖人山田方谷が名付けた。鳥が谷間から飛び立ち大きな木に移るように、学問に励もうという先人の熱い期待が込められている。

校舎は明治40年建築のルネッサンス風の旧校舎の老朽化に伴い、平成2年当時としては西日本初の本格的なオープンスクールとして改築移転され、現在に至っている。

(3) 最近の研究動向と「内容系列表」の作成

本校が「総合的な学習の時間」（以下総合学習）の研究に取り組み始めて8年になる。3年目より、「子どもと共に創る」という発想の元に研究を進め、「子どもの自己決定の保障」「教師の支援」「教師の指導性・計画性」「活動と内容の区別」の4つを総合学習を実践するための大切な柱として実践に取り組んでいる。

また、本校では新学習指導要領の「総合的な学習の時間」の「ねらい」の「自己の生き方を考えることができるようにすること」という部分が最も重要な意味をもつと考え、「総合的な学習の時間」を「生き方学習の時間」ととらえている。そこで「生き方の更新」にまで学習を深めるためには、この時間において一定の知識を覚え込むのではなく、自分を取り巻く実生活の様々な課題を直接体験したり、自分との関わりの中で問題解決に取り組むことで、問題は他人事ではなく、自分の問題として判断し解決に取り組むことができると考えている。

1997年度に、総合学習のハンドブックを作成し、総合学習の具体的な進め方をまとめたり、総合学習における校内役割分担などを明確にした。2000年度改訂。

2000年度には、総合学習の目標「生活科で培われた自立への基礎を基盤として地域で出会う身近で切実な問題を自分との関わりの中で解決することを通して、主体的な学び方や問題解決の能力を身に付け、自己の生き方を考えることができる」を作成した。また今まで実践してきた活動の内容を整理し、7つのスコープ（内容領域）とそれぞれの目標を設定した。

2001年度には、スコープ毎に内容項目を設定し、中・高学年の発達段階に応じたよ

り具体的な内容項目を設定することで内容系列表（次頁参照）を作成した。これは総合学習において子どもたちをどう育てていくのかを示しており，単元を作る際の大切な指針となっている。

総合的な学習の時間の内容系列表 No.1

久世町立遷喬小学校 2002.4.25

	目 標	内 容	3・4年	5・6年
国際	<p>自国の歴史や文化について理解と愛着をもち、異文化を理解・尊重し、国際社会の一員として共に生きる資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 日本の歴史や文化などについて理解するとともに、愛着をもつ。 イ 世界の様々な国の歴史や文化などについて理解するとともに、それぞれのよさを尊重する。 ウ 国際社会の一員として、共生していくこととする。 エ 外国語によるコミュニケーション能力を高める。</p>	<p>ア 日本の歴史や文化などに進んで親しみ、よさに気付く。 イ 世界の様々な国の歴史や文化などに進んで親しみ、それぞれのよさに気付く。 ウ 世界の様々な国の人々と交流し、だれとでも仲良く助け合おうとする。 エ 外国語に興味・関心をもち、歌や言葉に親しむ。</p>	<p>ア 日本の歴史や文化などについて理解を深め、大切にしようとする。 イ 世界の様々な国の歴史や文化などについて理解を深め、それぞれのよさを尊重する。 ウ 世界の様々な国の人々と積極的に交流し、地球市民として共に生きていこうとする。 エ 外国語による簡単な日常会話に慣れ親しむ。</p>
情報	<p>多くの情報の中から自分に必要な情報を選択し、活用することができる。積極的に責任ある発信ができる資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 多くの情報の中から、自分の目的に応じて適切な情報を選択して、収集することができる。 イ 収集・選択した情報を、自分の生活に活用することができる。 ウ 受け手の願い・状況等を踏まえ、主体的に責任ある情報の発信ができる。</p>	<p>ア 課題意識をもって、自分に必要な情報を選択して、収集することができる。 イ 収集・選択した情報を、自分の生活に生かそうとする。 ウ 相手の気持ちを考えて、積極的に情報の発信ができる。</p>	<p>ア 多様な情報源を用いて、多くの情報の中から、自分の目的に応じた適切な情報を選択して、収集することができる。 イ 収集・選択した情報を、自分の生活に積極的に活用することができる。 ウ 受け手の願い・状況等を踏まえ、メディアの特性を生かして、主体的に責任ある情報の発信ができる。</p>
環境	<p>身近な自然について理解と愛着をもち、自然と共に生きていこうとする。自然と共生する方法で環境の保全や望ましい環境を創る資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 身近な自然について理解するとともに、愛着をもつ。 イ 環境問題と自分たちの生活とのかかわりについて認識を深め、自然との共存について考える。 ウ 環境問題の解決や環境の保全・よりよい環境の創造について考え、自分のできる方法で実践しようとする。</p>	<p>ア 身近な自然に進んで親しみ、自然の大切さに気付く。 イ 身近な環境問題を知り、それは自分たちの生活と深いかわりがあることが分かる。 ウ 環境問題の解決や環境の保全、よりよい環境の創造を目指した地域の人々の活動や機関の取り組みについて知り、自分にもできる方法で実践しようとする。</p>	<p>ア 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高め、自然を大切にしようとする。 イ 環境問題と自分たちのかかわりについて理解を深め、全地球的な視野に立ち、自然との共存について考える。 ウ 環境問題の解決や環境の保全、よりよい環境の創造を目指した取り組みが抱える構造的な問題について認識を深めるとともに、自分の生き方を振り返り、主体的に実践しようとする。</p>
福祉	<p>自分を含め、様々な人々がそれぞれに生き甲斐をもっているように助け合っていること、そのためにお互いに助け合っていることを理解し、より一層充実した福祉社会の実現に貢献する資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 自分を含め、様々な人々がそれぞれに生き甲斐をもっていることを理解し、すべての人の存在を尊重する。 イ 福祉問題と自分たちの生活とのかかわりについて理解し、福祉に対する認識を深める。 ウ 福祉問題の解決やみんなが生き生きと充実した生活を送ることができる福祉社会の実現について考え、その実現に貢献しようとする。</p>	<p>ア 身近な高齢者、年少者、障害者などについて理解し、それぞれの人々の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する。 イ 様々な人々のおかれている社会的状況を知るとともに、身近なところに配慮や工夫があることが分かる。 ウ 身近な福祉問題の解決の方法やみんなが幸せに暮らせる社会の実現について考え、そのために自分にもできる活動を実践しようとする。</p>	<p>ア 様々な人々がそれぞれに生き甲斐をもっていることとや互いに助け合っていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。 イ 日々の生活は人々の支えや助けによって成り立っていることや福祉社会の現状や問題点を知り、福祉に対する認識を深める。 ウ みんなが生き生きと充実した生活を送ることができる福祉社会とはどんなものかを考え、福祉問題の解決やより一層充実した福祉社会を実現するために自分にもできる活動を進んで実践しようとする。</p>

総合的な学習の時間の内容系列表 No.2

久世町立遷喬小学校

	目 標	内 容	3・4年	5・6年
健 康	<p>生きていることのすばらしさや生命の尊厳に気づき、自分や他人の生命を尊重する心をもち、心身共に健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 生きていることのすばらしさや生命の尊厳に気づき、自他の生命を尊重する。 イ 心身共に健康で安全な生活について認識を深め、よりよい生活を営もうとする。</p>	<p>ア 自分の成長を振り返る活動を通して、生きていることのすばらしさや生命の大切さに気づき、すべての生命を大切にしようとする。 イ 健康で安全な生活を送るために欠かせない基本的な生活習慣の大切さが分かり、自分の生活をよりよいものにするようにする。</p>	<p>ア 命誕生のメカニズムを知り、自分の命が周りの人々とのつながりの中で育まれてきた尊いものであることを実感し、すべての生命をいっしょに大切にしようとする。 イ 病気を予防し、健康増進のメカニズムを理解し、自分の生活を見直し、よりよい生活環境を創造しようとする。</p>
進 路	<p>労働の喜びや苦勞、意欲について理解するとともに、自分の将来について考える資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 労働の喜び・苦勞を知り、労働の意義について考える。 イ いろいろな職業と自分たちの生活とのつながりについて知り、それぞれの職業の大切さを理解する。 ウ 今の自分を見つめ、自分の将来について考え、自己を高めていこうとする。</p>	<p>ア 身近で働く人々の喜びや苦勞を知り、働くことの大切さに気づく。 イ 身近な人々の仕事を知り、その仕事は自分たちの生活を支えていることが分かる。 ウ 自分自身に目を向け、自分のよさに気づき、よりよい未来に向かって意欲的に生活しようとする。</p>	<p>ア 地域の人々とともに労働することを通して、働く人の喜びや苦勞を実感し、労働の意義について考える。 イ いろいろな職業と自分たちの生活とのつながりについて理解し、それぞれの職業の大切さが分かる。 ウ 成長の足跡を振り返り、これからの自分の生き方について考え、なりたい自分に向かって、自己をより高めていこうとする。</p>
郷 土	<p>自分たちが暮らす地域の歴史、伝統、文化、生活習慣と愛着をもち、構成員の一人として、よりよい郷土を創る資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 地域の歴史、伝統、文化、生活習慣、産業などについて理解するとともに、愛着をもつ。 イ 地域を支える人たちの働きや活動を知り、その現状や問題点について理解する。 ウ 地域社会の構成員の一人として、地域の文化や生活を守り、受け継ぐとともによりよい郷土を創っていこうとする。</p>	<p>ア 地域の身近な文化や生活に関心をもち、そのよさに気づく。 イ 地域を支える人々の活動に触れ、人々の思いや願いを知り、自分も地域社会の一員であることに気づき、地域の文化や生活を守るために自分のできることは何かを考えて実行しようとする。</p>	<p>イ 地域の歴史、伝統、文化、産業などの特色に気づき、郷土を愛する心をもつ。 イ 地域を支える人々の働きや活動の様子を知り、地域社会の現状や問題点を理解する。 ウ 地域社会の一員として、地域の文化や生活を守るとともに、よりよい郷土を創っていくための方法を考え、実行しようとする。</p>

確認事項

- * 健康のスコープの内容は、人間の生命を中核にしている。動植物などの生命尊重については、環境のスコープの内容のアにも含める。
- * 進路のスコープの内容のウでいう自分の将来とは、職業を限定するのではなく、なりたい自分を指す。
- * 人権に関わる問題は、特別にはスコープを設けていないが、すべてのスコープの基盤となるので大切にしなければならぬ。
- * 情報のスコープの内容は、他のスコープのものとは性質が若干異なり、どの單元においても活動を行うときに触れることの多い内容である。